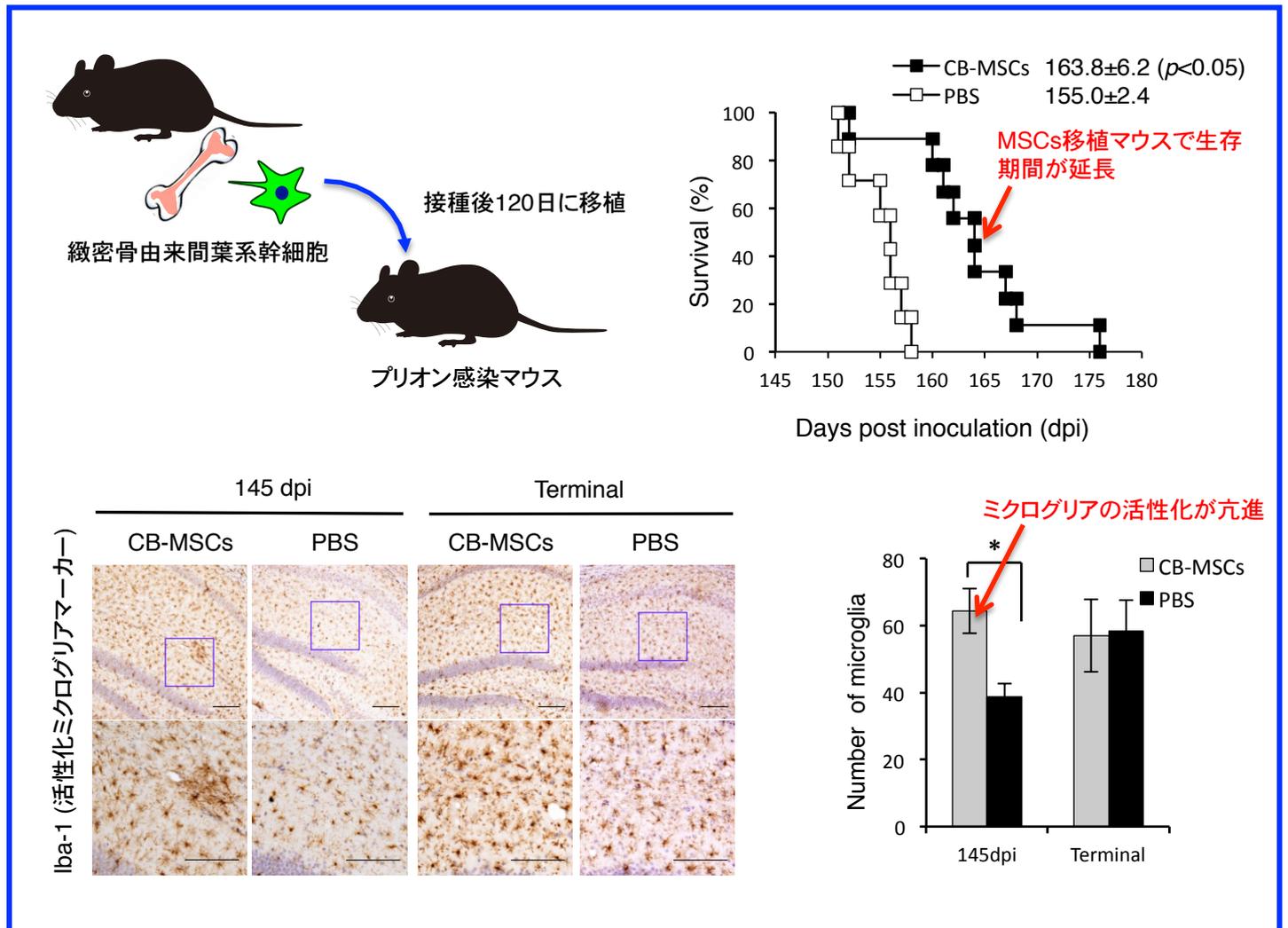


プリオン病の病態機序におけるグリア細胞の役割の解明

研究開発分担者： 北海道大学大学院獣医学研究科 堀内基広



解 説

1. プリオン病の細胞治療のモデルとして、マウスの緻密骨由来間葉系幹細胞 (CB-MSCs) をプリオン感染マウスに自己移植したところ、有意に生存期間が延長した (MSCs の自己移植により延命効果が認められた)。
2. CB-MSCs を移植したマウスでは、脳内におけるミクログリアの活性化がさらに亢進していた。ミクログリアのさらなる活性化亢進により生存期間が延長したと考える。